

テトラ利用によるトコブシ類の増養殖試験に当た の確認調査

専門技術員 瀬 底 正 武

復帰後、漁港、港湾等の基盤整備が急速に進み、その衝波施設としてテトラ構法が導入され、各
地区に相当数のテトラが海中に投げ込まれている。そのテトラとテトラの空間には、イセエビ類が
好んで生息すると聞く、また、水面上には附着藻類（コケ類主か？）や石灰藻類等の着生がいちぢ
るしく、そこには主に「カサガイ」の仲間が数多く見受けられる。

宮古の伊良部や伊江村でサザエの生息の報告がある。今回は伊江村について、昭和61年12月12日に
同漁協青年部の協力を得て「テトラポット」に生息する動植物の確認調査を実施したので報告する。
今回の調査は、あくまでも確認調査にすぎず、今後は①放流に当たりの数量（放流密度等）的な把
握と②放流個体数と餌料との関係③放流後の回収率④生育調査等水産試験場及び漁協青年部とのタ
イアップで実施したい。

伊江村港湾衝波テトラに生息する動植物

調査月日： 昭和60年12月12日

方 法： 潜水による確認調査

調査範囲： テトラの長さ約100～150m（外側）水深2～4m

協 力： 漁協青年部：テトラ投下して2～3年経過

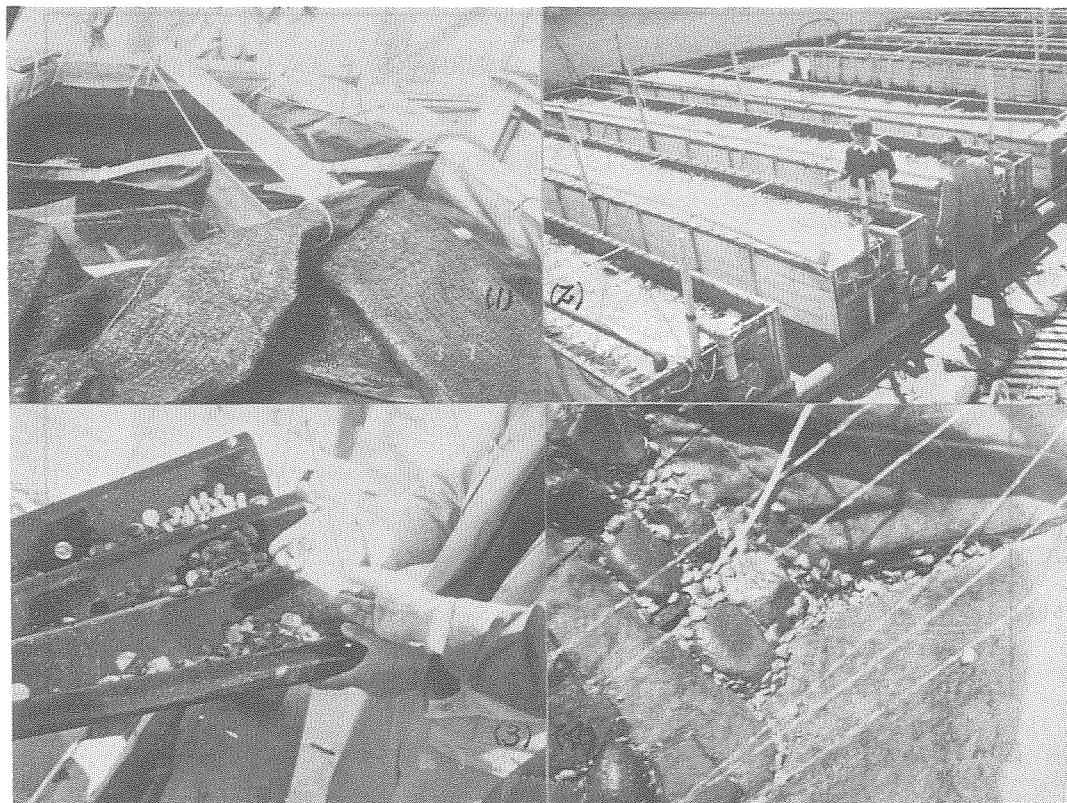
種 類	個 体 数	大 き さ (mm)		植 物 (貝類餌料)
		殻 高 " 長	殻 径 " 幅	
① イボアナゴ	9	小 4.8.7 大 3.8.8	3 6.2 2 8.9	<ul style="list-style-type: none"> ○おそらく、貝類の餌料とな っていると思われる附 着藻類は ○紅藻類のフジマツモ科の ヒメゴケの仲間ではないか？ ○思ったより餌料藻類の着 生は少ないようであった。 ○テトラのサザエは、砂等 の混入がなく食しても、 口の中でガサガサした違 和感がなく最高である。
② チョウセンサザエ	30	小 3.0.8 大 3.0.8	3 6.5 2 7.0	
③ キンタカハマガイ (ヒロセガイ)	3	小 6.0.0 大 6.0.0	4 7.0 3 1.0	
④ ニシキウスガイ	13	小 3.1.0 大 4.6.4	3 9.8 4 2.0	
⑤ ウズガイの仲間	4	小 3.4.6 大 4.1.6	3 7.0 3 4.8	
⑥ リュウキュウアオイ	1	3 8.6	3 7.2	
⑦ ヒメジャコ	8	小 5.9.2 大 7.5.4	3 8.2 4 8.2	
⑧ イモガイの仲間	2	小 3.2.0 大 4.7.7	1 8.6 3 2.0	
		長 径	短 径	殻 頂
⑨ ベッコウガサガイ	15	小 3.2.4 大 5.1.0	2 3.2 3 6.4	6.2 8.6
⑩ カラマツガイの仲間	5	小 2.1.6 大 3.6.0	1 7.3 2 9.5	7.2 7.5
⑪ その他				
ア、シラヒゲウニ	多い			
イ、ナガウニ	少ない			
ウ、テーブルサンゴ	密生			
エ、枝サンゴ	少ない			
※イセエビ類も生息していると聞く（聞き取り）				

〔トコブシの産卵期と成長（千葉及び鹿児島県の例）〕

昭和61年3月6日～8日までの3日間鹿児島県垂水栽培漁業センターにおいてフクトコブシについての種苗生産及び種苗放流等についての実状聴取をしたので今後の種苗放流に当って参考になればと思ひ紹介する。

トコブシの産卵時期は6月中旬より11月中旬で、盛期は7月、8月のようなのである。成熟個体は殻長3.5cm～4.0cm以上で千葉県では制限殻長は5.5cmに規制されている。産卵誘発で得られた受精卵は受精後43～46時間後には匍匐し附着生活に入り32日目には殻長2.52mm、60日目には殻長5.92mmに達する。したがって、5.5cm以上から出荷サイズとした場合受精後約1.5～2年、また、種苗放流稚貝が10mmサイズであれば放流後1年程度で収穫可能であろうと思われる。餌料については、受精後50日目頃まで附着珪藻類を使用しているが50日以降には、アオサ、アオノリ、ハバノリ、配合餌料（日本農産アワビ用）餌料藻として使用されている。

種苗生産の手法については、二枚貝類に比べ容易にできそうであり、水産試験場と検討の上母貝（イボアナゴ）飼育を試みたい。



〈写真説明〉 鹿児島県栽培漁業センター（垂水市）

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| (1) キャンバスシートによる母貝養成 | (2) 稚貝養成タンク（キャンバスシート使用） |
| (3) アワビ稚貝20～40mm | (4) フクトコブシ稚貝10mm～20mm |